

令和4年4月入学 総合研究大学院大学複合科学研究科  
極域科学専攻入学者選抜 小論文 博士課程（5年一貫制）

<注意事項>

- ・ 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- ・ 試験時間は60分です。
- ・ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- ・ 試験開始の合図後に、解答用紙の指定の欄に受験番号、氏名を記入しなさい。
- ・ 解答用紙は横書きで使用しなさい。
- ・ 解答用紙が複数枚にわたる場合には、すべての解答用紙に受験番号、氏名を記入し、さらに、解答用紙右下の所定の欄に、ページ数を記入しなさい（2枚の場合には、1/2、2/2、3枚の場合には1/3、2/3、3/3）。
- ・ 解答用紙がさらに必要な場合には、挙手をして監督者に知らせなさい。
- ・ 試験中は机の上の見やすい場所に受験票をおきなさい。
- ・ 試験中に机の上におけるのは、受験票の他、黒鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（手動式のもの）、時計（計時機能だけのもの）です。
- ・ 耳栓は使用できません。
- ・ ハンカチ、ティッシュペーパー、目薬等の使用を希望する者は、監督者に申し出て許可を受けてから使用しなさい。
- ・ 試験時間中は、監督者の指示に従いなさい。従わない場合は退室させることがあります。
- ・ 不正行為と認められた場合は、受験自体を無効とします。
- ・ 試験室に入室してから試験終了までは、試験中の発病又はトイレ等やむを得ない場合を除いて原則として一時退室を認めません。やむを得ない場合には、手を挙げて監督者の指示に従いなさい。一時退室が認められた場合でも、原則として試験時間の延長は認めません。
- ・ 試験終了5分前になったら、終了5分前の合図をします。
- ・ 試験終了後、問題冊子、解答用紙を持ち帰ってはいけません。

## <小論文>

問題：以下の文章は、1958年に日本の物理学者が書いた文章の一部を抜粋したものである。この文章を踏まえて、科学者の役割について、具体的な例（地球温暖化や新型コロナウイルスによるパンデミックなど）を挙げてあなたの考えを説明せよ。

なお、本問題は、論理的な思考、人に物事を伝える表現ができるかどうかを問うための問題である。あなたが、この文章の内容を肯定するか否定するかは問わない。また、字数は1000字程度を目安とする。

---

科学について、何かを論じようとする場合に、まず取り上げるべき問題は、科学の限界の問題である。今日われわれが科学と称しているものには、その取り扱い得る問題に、限界があるか否かということ、を、まず検討してみる必要がある。

今世紀<sup>\*1</sup>にはいつて、科学が非常に進歩し、特に自然科学が最近になって、急激な発展をとげたことは、今更述べ立てるまでもない。いわゆる人工頭脳のような機械ができたり、原子力が解放されたり、人工衛星が飛んだりしたために、正に科学ブームの世の中になった観がある。そしてこの調子で科学が進歩をつづけて行くと、近い将来に人間のあらゆる問題が、科学によって解決されるであろう、というような錯覚に陥っている人が、かなりあるように思われる。

(中略)今日の科学の進歩は、いろいろな自然現象の中から、今日の科学に適した問題を抜き出して、それを解決していると見た方が妥当である。(中略)一番重大な点をあげれば、科学は再現の可能な問題、英語でリプロデュースブルといわれている問題が、その対象となっている。もう一度くり返して、やってみることができるという、そういう問題についてのみ、科学は成り立つものなのである。(中谷宇吉郎「科学の方法」より抜粋)

\*1 今世紀：20世紀のこと